

令和5年度第2回 半田市地域福祉計画推進委員会会議要旨

開催日時	令和5年10月13日(金)	10時00分～11時30分
開催場所	市役所大会議室(4F)	
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委員長あいさつ 3. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和5年度事業中間報告について (2) 第2次半田市地域福祉計画の中間見直しについて (3) 重層的支援体制整備事業実施計画(案)について (4) その他 令和4年度ふくし共育の感想や変化について 4. 事務連絡 5. 閉会 	
出席者	<p>【委員】 ◎は委員長 溝口 昭弘、小栗 照夫、山田 嵩、森川 武彦、◎鷺野 林平、今井 友乃 下村 裕子、柴田 将人</p> <p>【半田市 関係課】 生活援護課 長谷川 信和、高齢介護課 沢田 義行、健康課 竹内 健、 子育て相談課 三輪 象太郎、学校教育課 中井 康友</p> <p>事務局</p> <p>【半田市】 福祉部長 竹部 益世、地域福祉課 杉江 慎二、吉澤 伸博、 清水 太士、榊原 沙恵、黒野 隼</p> <p>【半田市社会福祉協議会】 事務局長 小野田 靖、事務局次長 前山 憲一、中根 靖幸</p>	
次第	議事概要	
1. 開会	<p>(地域福祉課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度第2回半田市地域福祉計画推進委員会を開会します。 ・本日は、社会福祉法人ダブルエッチジェー 立石委員が欠席です。 ・前回の会議でご意見いただきました、学校教育課の本会議への出席について、今回から中井康友 指導主事が参加しています。 	
2. 委員長あいさつ	<p>(鷺野委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日もたくさんの議事が予定されていますが、委員のみなさんから忌憚のないご意見をご発言いただき、より良い会議にしていきたいと思っております。よろしく申し上げます。 	

<p>3 議事</p> <p>(1) 令和5年度事業中間報告について</p>	<p>(鷲野委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それでは、次第に沿って議事を進行します。 <p>(事務局〈市〉)</p> <p>○資料1により説明。</p> <p>(下村委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・p5「重層子どもコア会議」ではどのようなことを協議している会議ですか。 <p>(事務局〈市〉)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重層子どもコア会議とは、子育て相談課・子ども育成課・学校教育課・生活援護課・地域福祉課・社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカー（以下CSW）・障がい者相談支援センターが集まり、子ども分野に焦点を当て、幼少期から重層的に支援していくための取組みの検討やケース分析を目的とした会議です。 ・今年度5月より開始し、前期は、現在関わっている困難さを抱える世帯等の5ケースを挙げ、ご本人の幼少期からの振り返りを行い、どのタイミングでどのような支援が必要だったのか分析・整理を行いました。後期では、5ケースのとりまとめと、課題整理をして、具体的な取組みを検討していく予定となっています。 <p>(今井委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・p3 推進施策(2) 居住支援協議会設立について、半田市は今後どのような方針で取り組めますか。 <p>(生活援護課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅確保要配慮者と呼ばれる高齢者等の社会的弱者が現在も増加している傾向があるなかで、半田市でも住居確保が難しくなっています。そこで、今年度居住支援協議会を設立する準備を進めています。年内には宅地建物取引業協会や民間事業者等関係者と意見交換を予定しています。 <p>(今井委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度にふくし課題プロジェクトで、「居住支援ガイドブック」を作成しています。せっかく良いものがあるので、こういった既存のものも活用しながら進んでいくことを期待しています。 <p>(生活援護課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居住支援協議会では、住宅確保要配慮者を大家が安心して受け入れてもらえるように、死後支援などの課題に対して、関係者が協力していける仕組みづくりを進めるなかで、ガイドブックの活用も一緒に検討していく予定です。
--	--

	<p>(鷲野委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半田市社会福祉協議会は居住支援法人でもありますが、この取組みにはどのように関わっていくのか。 <p>(事務局〈社協〉)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでも居住支援法人として、生活困窮担当課の生活援護課と協力し合って、住まいに関する課題に取り組んでいます。居住支援協議会の立ち上げを福祉の視点だけでなく、行政の建築部門の担当課である建築課も巻き込み、県とのやり取りを建築部署同士で実施したり、建築課から大家など建築部門の関係者にもアプローチしたりすることで、スムーズに進めていきたいと考えています。 ・民間のアパート経営でも、新しいアパートはすぐに入居が決まる一方で、古いアパートは、老朽化による建て替えをするのか、それとも入居してくれる人を受け入れるのか等空室対策が課題だと大家さんも感じているようです。そのようなことから、最近は居住支援法人として緊急連絡先を担保することで入居を認めてくれることも増えてきています。居住支援協議会を立ち上げて、建築・福祉分野、双方の課題やできることを整理しながら、協議を進めていきたいと思っています。 <p>(柴田委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居住に関する情報提供です。名古屋市で「住まいサポートなごや」という居住支援コーディネート事業を実施しています。法律相談等で携わっていますので、情報提供などでお力になれることがあれば声を掛けてください。
<p>(2) 第2次 半田市地域福祉計画の中間見直しについて</p>	<p>(事務局〈市〉)</p> <p>○資料2 第2次地域福祉計画中間実績評価表により説明。</p> <p>(山田委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・p8 委員コメント③ 民生・児童委員による高齢者訪問がなくなったのはなぜですか。 <p>(健康課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者訪問についてですが、従来は行政から民生・児童委員にご協力をお願いをし、収集した情報はさまざまな施策へ反映していましたが、今年度からは、情報収集のやり方を変更して実施していくことになりました。民生・児童委員が主体的に取り組んでいただける場合は、名簿をお渡しすることも可能なので、今後ともご協力いただける範囲で実施していただきたいと思っています。 <p>(小栗委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康課長からご説明いただきましたが、民生・児童委員の仕事の柱は、「高齢者訪問」と「こんにちは赤ちゃん訪問」で、仕事を取り上げられたように感じます。『自主的に高齢者訪問を実施したい場合は、資料を渡します。』では無責任です。これまでは、高齢者訪問をきっかけに、担当の地区を回ることで、顔見知りの関係となり、住民が

民生・児童委員に相談する、といったサイクルができていました。また、歴代の民生・児童委員が積み上げてきた地域の情報を行政が吸い上げたようにも感じます。行政が責任をもって代わりとなる活動等を検討いただきたいと思います。

(福祉部長)

・多くの方から小栗委員のようなご意見をいただいております。高齢者訪問では、高齢者数やニーズが増加しているため、民生・児童委員の負担軽減を考慮するとともに、こんにちは赤ちゃん訪問を含め、相談体制の見直しを図ったことにより変更させていただきました。しかしながら、民生・児童委員と行政が十分な意見交換や意思疎通を図ることなく、決定をしてしまったことに課題があると感じております。そのため、現在は民生・児童委員の役員の皆様と意見交換を始めさせていただいたところで、本来の民生・児童委員の活動について、行政との連携方法等今後のこともしっかりと議論を進めていきたいと思っています。

(事務局〈市〉)

○資料2 計画本編 により説明。

(地域福祉課長)

・資料の補足説明を2つします。

・①孤独・孤立対策推進法について

R6.4 より孤独・孤立対策推進法が施行されます。半田市としては、地域福祉課が中心になって全庁的に取り組んでいくことになると思います。高齢者や障がい者、子どもという分野ごとではなく、全世代が該当する可能性があるため、分野横断的に取り組んでいくべきものと考えています。そのため、地域福祉計画の中で「孤独・孤立」という言葉をキーワードとして、追記・修正等を予定しています。

・②再犯防止推進計画について

保護司からも要望があり、半田市としても再犯防止に取り組んでいくこととなりました。地域福祉計画とは別に個別計画として、生活援護課が中心となって策定を進めています。しかしながら、地域福祉計画の理念等を踏まえた個別計画となっていますので、地域福祉計画の中には、「再犯」というキーワードを追記したいと考えています。

・生活援護課より再犯防止推進計画について、補足説明します。

(生活援護課長)

・再犯という言葉が福祉とどう関係があるかといいますと、再犯者の分析をすると、大半が高齢者や障がい者等が受刑後に地域となじめなかったり、必要な福祉的サービスを受けられなかったりして、犯罪を繰り返してしまう傾向にあることも要因のひとつであることが分かってきました。犯罪者へ直接的な支援を検討しているのではなく、再犯件数を減らしていくためにも、現状の福祉サービスをきちんと届けられるように計画の策定を進めています。

	<p>(福祉部長)</p> <p>・高齢者・障がい者という捉え方だけでなく、住まいが確保できない、定職につけない等の困難を抱えている人が再犯してしまうことが多いと聞いています。生活困窮自立相談の窓口での取組みも通じるところがあるところを踏まえ、福祉的な側面から再犯件数を減らしていく計画となります。</p> <p style="text-align: center;"><意見・質問等なし></p>
<p>(3) 重層的支援体制整備事業実施計画(案)について</p>	<p>(事務局<市>)</p> <p>○資料3により説明。</p> <p>(下村委員)</p> <p>・重層的支援体制を進めていくうえで、子ども分野の活動を通して、学齢期の福祉的な支援がないと感じているので、子どもに目を向ける計画であってほしいと思います。子ども食堂などの活動では、子どもを通して家庭の情報を得ることもあります。現在、家族支援ではCSWが5名、スクールソーシャルワーカー(以下SSW)が1名配置されているなかで、地域福祉やみんなの暮らしを考え、これからの地域を支える子どもたちを育てていくという視点で見ると、SSWを充実しないと進んでいけないこともたくさんあります。SSWを中学校区に各1名配置し、CSWや学校の先生と適切な役割分担で連携して取り組んでいける体制を、今ここで踏ん張って整備していけると良いと思います。それを踏まえて、地域づくりを考えてもらいたいです。地域福祉計画では、「子ども」という言葉があまり出てきませんが、子どもや高齢者などの実際の生活を地域で支えるというところに焦点を当てた計画になるべきではないかと思います。</p> <p>(福祉部長)</p> <p>・ご指摘の通りだと感じています。教育部と協議を重ね、しっかりとした体制を整備するためにSSWの増員を検討しているところです。これまで財政部局へのアプローチが足りていなかった点を踏まえ、現在、教育部から財政部局へ予算確保をお願いしています。</p> <p>(学校教育課 指導主事)</p> <p>・委員ご指摘の通り、SSW1名という状況は喫緊の課題と捉えており、教育部でも各中学校区にSSW1名を理想と考えています。部長からも説明がありましたが、必要な体制が整備できるよう学校教育課としてもできる限り尽力していきます。</p> <p>(事務局<社協>)</p> <p>・重層子どもコア会議において、過去の5事例を分析したことで半田市の課題が見えてきました。半田市は、小学校就学までは保健師を中心に丁寧な支援がありますが、小学校へ入学すると勉強が中心になり、福祉的関与が少なくなるにつれ、家庭の状況把握が難しいという課題が分かってきました。中学入学後や卒業後に問題が大きく</p>

	<p>なつてから介入する難しさは現場レベルでは共有できていて、SSW の役割は大切に増員が必要と考えています。SSW が各中学校区に 1 名配置されることにより、CSW としては小学校への支援に取り組む必要があると感じています。半田市では SSW の必要性を理解し、体制整備に向けた議論がされていると感じていますので、期待して見守っていききたいと思います。</p> <p>(下村委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活が時代に沿って変わってきています。昔とははるかに違つたため、子どもの課題を学校の先生だけでは担いきれない部分があるので、子どもに目を向け、SSW を充実してほしいとお伝えしています。これは、将来の納税者を増やすのか減らすのか、半田市の将来にも関わることだと思います。 <p>(事務局〈社協〉)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉を研究している大橋 謙策先生が、「家族機能はほぼ崩壊しているので期待してはいけない。」と言われています。子どもが健全に成長するには、家族や親がいるから大丈夫ということではなく、地域でどうサポートしていくかを考えていかなければならないとも言われています。CSW としては、学校の先生方のサポートもしていきます。地域で子どもを育てていくためには、地域福祉計画の中に子どもについて明記していくことも今後事務局で検討していききたいと思います。 <p>(今井委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成年後見では、日ごろから「どうしてもっと小さいときから早く支援ができなかつたのか。」と感じることは多くあります。予算に限りがあるのも理解できますが、もっと子どもにお金を使ってほしいと思います。重層的支援体制整備事業実施計画では、子ども分野が縦割りで一番難しいと感じていますが、思い切つて子どものことに注目した計画となつても良いと思います。また、民生・児童委員の方にも地域で支える側として、活躍していただきたいと思います。 <p>(鷲野委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSW の配置について展望が聞けて良かったと思います。人材難ではありますが、SSW として学校に携わりたいと思っている方もいると思いますので、そういった方の活躍の場も創出していけると良いと思います。
<p>(4) その他 令和 4 年度ふ くし共育の感想 や変化について</p>	<p>(事務局〈社協 中根氏〉)</p> <p>○資料 4 により説明。</p> <p style="text-align: center;"><意見・質問等なし></p>
<p>4. 事務連絡</p>	<p>(地域福祉課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鷲野委員長、ありがとうございました。 ・それでは、事務局から事務連絡です。

	<p>(事務局〈市〉)</p> <p>・第3回は令和6年2月6日(火) 10時開始、会場は市役所大会議室となります。</p>
5. 閉会	<p>(地域福祉課長)</p> <p>・これをもちまして、令和5年度第2回半田市地域福祉計画推進委員会を終了します。ありがとうございました。</p>
	<p>(終了)</p>